

10月30日～11月1日の2泊3日の日程で、座間味村、渡嘉敷島にて県内宿泊研修を行いました。1日目は座間味島を訪れ、座間味幼小中学校での研修と特色ある教育活動について藪周二園長・校長から説明を受け、その後座間味村の平和教育について座間味区長宮里芳和からの戦跡を訪ねながら説明を受けました。

午後は海洋研修を行いました。2日目は阿嘉島・慶留間島へ渡り、阿嘉幼小中、慶留間小中の研修と阿嘉島臨海研究所にて慶良間の珊瑚についての講話をうけました。午後からは渡嘉敷島へ渡り、県へき地教育研究大会へ参加しました。

下記は参加した教育研究員のみなさんの感想です。

座間味幼、小・中学校では、「本気で授業」という学推目標だけでなく、教室の掲示物などから、先生方が学級経営に力を入れている様子が伺えました。また、学校行事等からは「自立」にむけた取り組みが数多くあり、地域の人・自然との繋がり、体験活動を充実させることで、生徒が地域のよさに気づき、感動体験が学習への意欲を高めているのだと思いました。平和学習では、現実のことは思えない事がこの島であった事実に・・・。(仲本)

初日は、とても内容のこい1日となりました。座間味幼小中学校研修では、様々な場面から子どもと教師との距離が非常に近く、一人一人に寄り添ったきめ細かい指導がなされているのだなと感じました。校長先生のお話からは、学力面や豊かな心の育成の面でも、幼小中学校の密接な連携について知ることができました。中でも、縦割り班での春の遠足で、地域教材を活用し、異年齢の子ども達が楽しそうに活動しているのだなという様子が“奇跡の1枚”の写真から伺えました。(饒平名)

座間味港で藪校長先生の温かい歓迎を受け研修がスタートしました。座間味幼小中では、幼小中の一貫性を活かして異年齢集団の関わりを意図的、計画的にすることで、上級生は、下級生を思いやる気持ち、下級生は、上級生を慕い尊敬する気持ちを持たせて人と関わる力を育てていると感じた。また、本島の中学生との交流もあり、同級生同士の関わりを持たせる機会にもなっている。地域を知るために地域の産業を見学したり話を聞いたりすることで、地域に対しての愛着と誇りを持たせていくねらいが感じられた。職員は、子どもたちに寄り添った関わり(子どもにすぐに対応できるように。いつでも職員が、幼小中の様子が見れる。中学の先生が小学6年の理科の授業する。家庭学習ノートを校長もみる。)など職員間の連携がとれていると感じた。一番の驚きは、幼稚園生が小学校に入学して数日たつとすぐに授業できるということでした。このことは、幼稚園での学びと基本的生活習慣がしっかり身についていることがわかり、家庭でも子どもに寄り添った生活がされていることがよみとれた。(仲村)

「平和教育」に関わる研修の講師である宮里さんに出会うまでに、幾つかの資料や論文を読んできましたが、「事実を残す」ことは非常に難しいことだと思いました。人間は、一人一人の感性が異なるので主観が入ったりと全てが真実とは言い難いものだと思います。しかし、沖縄戦の記録を残すことは今を頑張る子ども達に「幸せ」になるための重要な歴史だと思います。私は、これまで渡名喜島、知念で沖縄戦争体験者の聞き取りや講話会を行ってきましたが、地域によっては全く異なる戦争の状況があったのだと思い知らされました。同じ離島でも、渡名喜島はそれほど犠牲者は出ず、義津山の防空壕での避難、知念はほとんどが収容所として使われたこと等多くの事実があります。今回、宮里さんの調査してまとめた資料まで頂いたことを無駄にせず、平和教育についてもっと深めていきたいと思ひます。(外間)

12月の予定

- 2日(月) 所外研⑫
(那覇市立金城幼稚園見学)
- 3日(火) 所外研⑬
(東風平中校長講話見学)
- 4日(水) 第2回理論検討会
- 6日(金) 小地区音(糸満地区)
- 9日(月) 指導講師連絡会
- 12日(木) 所外研⑭
(県中学国語研究大会)
- 14日(土) 八重瀬町学校公開日
- 16日(月) 指導講師検討会～18日
- 18日(水) 20周年実行委員会
- 20日(金) 職務会
- 20日(金) 前橋キャパソン来沖～28日
- 25日(水) 検証授業検討会
- 27日(木) 仕事納め
- 1/6(月) 仕事始め

